

令和7年度第8回別府市人権教育学級

- 1 日 時 令和8年2月5日（木曜日） 14時～16時
- 2 場 所 別府市社会福社会館 多目的大広間
- 3 テー マ 部落差別問題
- 4 演 題 「ギターのおじさんはフツの人だった」
- 5 講 師 宇佐市教育委員会 社会教育指導員 山末 博俊 氏

【講師プロフィール】

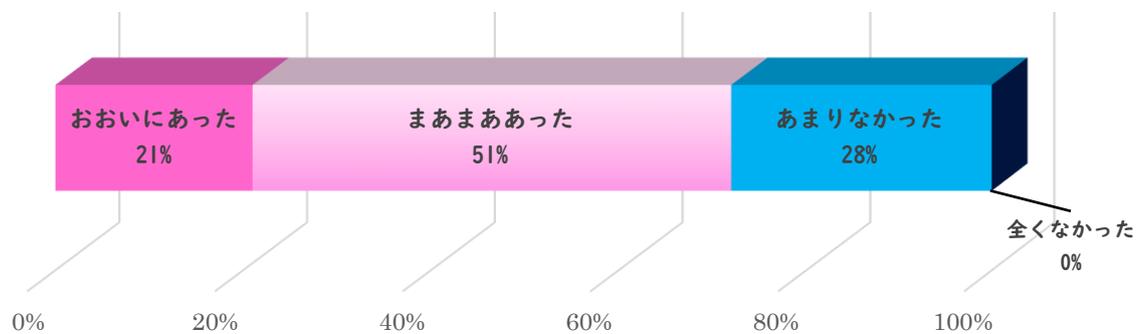
- ・主に小学校で38年間勤務し、校長として退職
- ・教諭時代には、大分県同和教育研究協議会や全国同和教育研究協議会専門委員として活躍
- ・教職員、PTA、児童、生徒向けの人権研修の講師として活躍中

6 講演内容

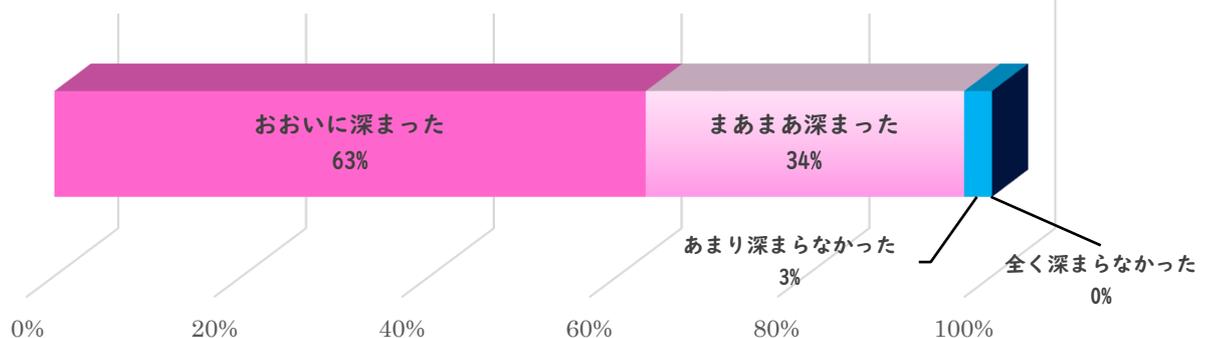
- | | |
|------------------|-----------------|
| ①同和問題（部落差別）とは | ②ここが部落差別と知って |
| ③ごまかし逃げることで守った自分 | ④新任校での同和教育との出会い |
| ⑤小6担任学級での立場宣言 | ⑥部落出身教職員の会に誘われて |
| ⑦同和教育推進委員となって | ⑧差別文書事件から学んだこと |
| ⑨ともに向き合える仲間に | |

7 参加者意識調査

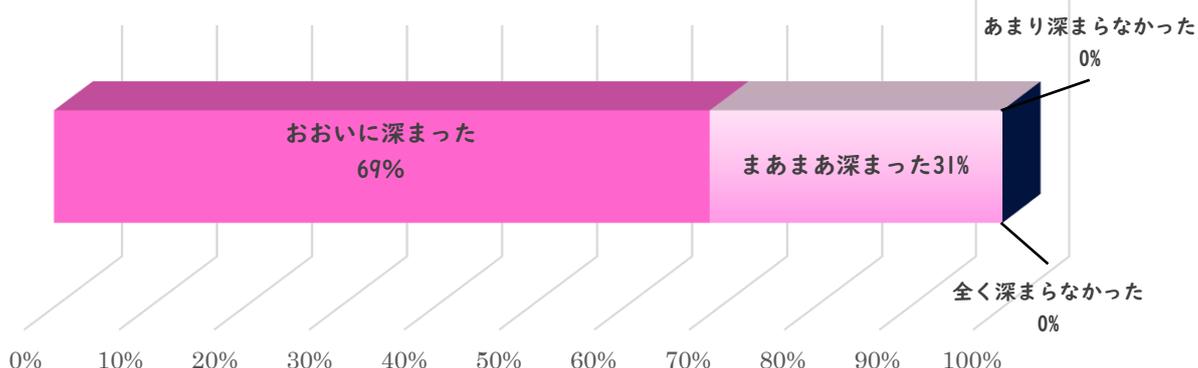
(1) 今回の講座に参加する以前に、人権問題について、どのくらい関心がありましたか。



(2) 今回の講座に参加して、人権問題について、関心が深まりましたか。



(3) 今回の講座に参加して、部落差別問題について、理解が深まりましたか。



8 学習会の様子



〈講師 山末博俊氏〉



〈講演の様子〉



〈閉級式の様子〉

9 参加者の感想

- 部落問題もいじめもつながるものがあると考えさせられました。人によって育てられ方がちがいで、こどもの価値観も違ってくる。親として、知らないうちに、自分の価値観をこどもに植え付けていってしまうので、責任は重いと思いました。相手を思いやり、発する言葉や行動を考えていかなければならないと思いました。
- 部落差別は何となく知っていましたが、目の当たりにすることもなく生きてきました。現在でもまだ差別が続いていることに驚きましたが、インターネットも部落差別を広げていく道具なのです。偏見もなく、正しい知識が広まり、部落差別がなくなることを願っています。どこで生まれようが、同じ人間であり、差はないはずで。
- 部落差別については、あいまいで勝手なイメージが今もなお残り、苦しんでいる人々がいる事実にとっても悲しい気持ちになりました。このような差別はなくしていかなければならないと強く思いました。そのためには、差別はいけないことだと発信していかなければいけないと思います。感情を込めたお話はととても響きました。ありがとうございました。
- たまたまそこに生まれただけで、出身地域を言うことに勇気を出さないといけないことに、先生も違和感があり、お辛かったお気持ちを思うと胸が痛みます。過去に得をする人がいた歴史の制度を過去形にする必要があると強く思いました。ご講義の中で、無知の怖さを語られていましたがこどもにも正しい知識を伝えるなど、家庭でも差別やいじめについて話す機会を作っていきたいと思いました。
- 「差別と闘ってきた」というワードが印象に残りました。じつは同和地区がどこなのかも知りません。また、もともと人と比べることや比べられることを意識していません。部落差別に限らず、世の中には、偏見や差別は意図してもしなくても存在しています。私は先生のご出身の学校の卒業生です。なので、とても身近なことと感じてしまいました。ただ知らないことと受けとめず、これからは学んでいくこと、そして自分にできることを考えていくことは、人としての在り方につながっていくと感じました。正しく知ることから始められたらと思います。差別の現実には身近になかったのですが、現実にあるエピソードを知ると驚くばかりでした。
- ご自身の体験を隠さず魂を込めて伝えていただき、心のど真ん中に届きました。今まで参加した講演、過去学校で学んだ人権学習も含めダントツの一位でした。先生には、PTA活動の相談にのっていただきたいです。何卒よろしく願いいたします。